

平成 29 年度第 1 回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録

日 時：平成 29 年 4 月 17 日（月）13 時 00 分 - 15 時 03 分

場 所：京都大学宇治地区研究所本館 S 棟 5 階 防災研究所大会議室(S-519D)

出席者（敬称略）

加藤、河島、大石（議長）、橋本学、木戸、山下、佐藤、齊藤、戸田、小林、山本、川村（代理：川野）、酒井、竹林、岩田、小野（代理：金氏）、川池、多々納、井ノ口、橋本武志、佐々、三隅（代理：三浦）、大西

オブザーバー（敬称略）： 中川（所長）、渋谷、松室

（事務局）：平田、河津

配付資料

資料 1 平成 29 年度京都大学防災研究所自然災害研究協議会委員名簿・出席者名簿

資料 2 平成 28 年度第 3 回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録（案）

資料 3 平成 28 年度自然災害研究協議会決算報告

資料 4 平成 29 年度自然災害研究協議会本部活動計画および各地区部会の活動計画と予算計画

資料 5 平成 29 年度自然災害研究協議会予算（案）

資料 6 第 54 回自然災害科学総合シンポジウム（案）

資料 7 自然災害研究協議会科研費（突発災害）申請ガイドライン（案）

突発災害調査委員会名簿（平成 29 年度）（案）

・協議会開催にあたり、総務担当の岩田委員および京都大学防災研究所長・中川教授より挨拶がなされた。

・岩田委員より、本協議会の委員紹介および出席委員（代理）の確認がなされた。

議 事：

1．新議長の選出

岩田委員より、本協議会議長について説明がなされ、神戸大学 教授 大石哲委員を本協議会委員長に推薦する旨の説明があり、了承された。

2．前回議事録の確認（資料 2）

岩田委員より、議事録（案）の説明があり、指摘のあった箇所について修正した上で、了承

された。

3．平成 28 年度決算報告について（資料 3）

岩田委員より資料に基づいて説明がなされ了承された。

4．平成 29 年度本部および各地区部会の活動計画と予算計画について（資料 4）

資料に基づいて、本部より平成 28 年度活動報告及び平成 29 年度予算計画、各地区部会より平成 29 年度予算計画について説明がなされ了承された。

本 部：平成 28 年度の活動報告および平成 29 年度の活動計画について説明がなされた。

今年度の活動計画は、第 54 回自然災害科学総合シンポジウムの開催（平成 29 年 9 月 14 日（木）京都大学宇治キャンパス内化学研究所共同研究棟大セミナー室にて開催予定）、河川災害シンポジウムの開催（岡山大学にて平成 30 年 3 月 5 日（月）開催予定）、SAIGAI データベースの充実、人材 DB の再構築、突発災害調査の実施（特別研究促進費：那須雪崩災害）、国際展開調査（世界防災研究所連合（GADRI）との連携）。

北海道地区：北海道地区幹事会・総会の開催、地区フォーラム開催、資料センター報告の印刷頒布、北海道地区自然災害関係研究者ネットワークの更新、HP の更新、若手研究会の発足と合宿研修。

東北地区：研究集会、総会および公開シンポジウムの開催（平成 30 年 1 月 6 日（土）～7 日（日）八戸ポータルミュージアム hacchi）、研究論文集の発刊、HP の管理運営、メーリングリストの管理運営、東北地区自然災害資料センターの管理運営、シンポジウム等の共催・後援。

関東地区：市民オープンフォーラムの開催（11 月～12 月市民ホールを予定）、人材データベースの保守・拡充。

中部地区：げんさい楽座の開催、研究成果公開シンポジウムの開催（平成 29 年 6 月 10 日（土）三重大学）減災連携シンポジウムの開催（平成 29 年 6 月名古屋大学）、研究集会の開催（平成 30 年 3 月 3 日（土））、成果発表会の開催（平成 30 年 3 月 24 日）、HP の運営管理、水防災セミナーの開催、SAIGAI データベースの更新。

近畿地区：幹事会の開催、研究集会の共催（年 2 回公募）、メールマガジンの発行（今後検討）

中国地区：部会 HP の管理・充実、研究発表会の実施、研究論文集の発行、地域の防災関係機関との連携・交流、文部科学省の「地域防災対策支援研究プロジェクト」との

連携。

四国地区：突発災害調査、自然災害フォーラムの共催（平成 29 年 10 月頃）、南海地震研究シンポジウムの共催、四国災害アーカイブの充実、地区部会の開催。

西部地区：研究発表会の開催（平成 30 年 2 月 2 日（金）予定）、地区部会報の発行、地区部会名簿の更新。

5．平成 29 年度 自然災害研究協議会予算（案）について（資料 5）

岩田委員より配布資料に基づき、昨年度と同様に各地区部会予算を調整配分した旨の説明がなされた。各地区について、予算の範囲内で活動していただけるようお願いし、協議の結果、本予算案が了承された。

また、岩田委員より、今回新たに、北海道地区より提案のあった若手研究会の研修などは、各部会や協議会の枠内では、資金の関係上実施が難しいため競争的資金等に申請することを検討してはどうかとの意見があった。採択されれば、若手研究者の裾野を広げるためにも、本部からもバックアップする方向性でいくということで、了解された。

6．第 54 回自然災害科学総合シンポジウムについて（資料 6）

岩田委員より配布資料に基づき、平成 29 年 9 月 14 日（木）京都大学化学研究所共同研究棟 1 階大セミナー室にて午前に開催予定の第 54 回自然災害科学総合シンポジウムのプログラム（案）について説明がなされ、了承された。各講演については、後日、岩田委員より照会予定。

シンポジウム終了後、引き続き、第 2 回協議会実施予定。その後、懇親会を実施する予定であるが、同日、他の研究集会在実施（きはだはそちらで貸切り）されるため、生協にて開催予定。

7．突発災害調査委員会について（資料 7）

岩田委員より配布資料に基づき、自然災害研究協議会科研費（突発災害）申請ガイドラインの修正案および委員会名簿について説明がなされ了承された。

8．その他

(1) データベース担当の大西委員より、2つのデータベースの現状報告と今後の方向性についての説明があった。

データベースのうち人材データベースは、地区部会の組織を確立し地域に特徴的な災害研究を推進する目的、突発災害の調査を迅速に立ち上げる目的がある。しかしながら、現状

は、システムが古くセキュリティーの問題で外部に公開されておらず、完全に作り直す必要があり、全く機能していない。現在は、1,037名の登録がある。今後は、データベースをアップデートするのではなく、メールリングリストを組織的に活用するなどの方向で議論する。

データベース SAIGAI は、各支部で収集している書誌をリスト化し登録しているが、新規登録が伸び悩んでいる上に、システムそのものの使い勝手が悪い。データには、既に他所で電子化されているものもあり、今後、どのようなものを電子化するのか検討する必要がある。

今後は、2つのデータベースとも、所内をコアとしてタスクフォースを立ち上げて、関係者で協議の場を持つことになる。何かアイデアがあれば、是非ともご提案をお願いしたいとのことであった。

これを受けて、人材データベースについては、前回の協議会で各支部のメールリングリストの活用について了解いただいたので、まずは、こちらを活用するのではどうかとの意見があり、情報発信については、その方向で、突発災害の人材共有については、引き続きタスクフォースにて議論していただくということで了解された。

データベース SAIGAI については、タスクフォースからの報告を元に議論していくことで了解された。

(2) 突発災害担当の酒井委員より、栃木県那須町で発生した雪崩災害に関連した科研費(突発災害)申請に関し、進捗状況が報告された。防災科学技術研究所雪氷防災研究センター 上石 勲センター長を代表者として31名体制で申請を行い、4月13日に交付決定された。4月19日(水)に合同調査を行い、25,26日には、意見交換会を行う予定とのことであった。

(3) 国際連携担当の多々納委員より、平成29年3月19日から3月21日開催の「世界防災研究所サミット」「世界防災研究所連合総会」について配布資料に基づき報告がなされた。

- ・ 次回の協議会は、9月14日(木)17:00~18:00の予定。
- ・ 岩田委員より、出張の手続きについて、前泊、後泊などがあり、経済的な日程でない場合やルートでない場合は、担当の事務に事前に相談してほしい、必要に応じて理由をお尋ねする可能性があることについてお願いがあった。

配付冊子等：

自然災害研究協議会パンフレット(日本語版・英語版) 規程、申合せ、
京都大学防災研究所要覧、GADRI 事業報告書